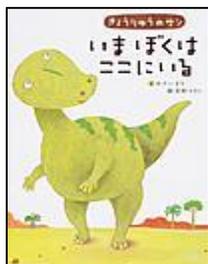




『いまぼくはここにいる』

かさい まり / 文 星野 イクミ / 絵 (アリス館)



植物食恐竜のサンは、ティラノサウルスに追いかけて海の中へ。そして何万年、何千万年が経ち。北海道むかわ町穂別でみつけた「むかわ竜」をモデルにした絵本。

『ぬかどこすけ!』

かとう まふみ / 作 (あかね書房)



初めての仕事で張りきる、入れものの“かめ”。でもおばあちゃんに入れられたのは、ぐちゃぐちゃしたものがっかり。おまけに毎日かきまぜられて、においと笑い声が! 中にいたのは…。ぬかづけのおいしい秘密がわかる絵本。

『ひみつのかんかん』

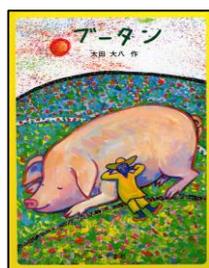
花山 かずみ / 作 (借成社)



家族の写真、お父さんのメガネ、着物が入っていたタンスの取っ手…。ひいばあちゃんの宝物のかんかんには、たくさんの思い出と秘密が入っている。女の子とひいばあちゃんの会話が楽しい、あたたかな絵本。

『ブータン』

太田 大八 / 作 (こぐま社)



ブータンはこぶた。ベンさんにかわいがられてゾウのように大きくなって話題になった。頼みこまれて出場した博覧会も大成功。ところがお祝いのパーティのごちそうに、ブータンの丸焼きを出したいという。とんでもないこと!

『すき』

有田 奈央 / さく 羽尻 利門 / え (少年写真新聞社)



ぼくの「すき」なあそび、わたしの「すき」なほん、ぼくの「すき」なたべもの、わたしの「すき」なあと…。春夏秋冬、日常にある子どもたちの「すき」を描いた、家族のあたたかなお話。

『はこちゃん』

かんの ゆうこ / 文 江頭 路子 / 絵 (講談社)



「葉子(はこ)」という名前をからかわれて悲しくなった、はこちゃん。しかし、その名前に込められた思いを知り…。名前のゆらいをこえて、親子の絆を感じる絵本。

『ひみつのビクビク』

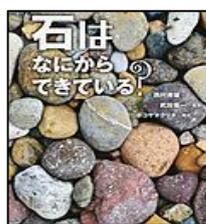
フランチェスカ・サンナ / 作 なかがわ ちひろ / 訳 (廣済堂あかつき)



小さなビクビクは女の子のひみつの友だち。いつも女の子を守ってくれるビクビク。だけど、女の子が知らない国に引っ越すと、ビクビクはどんどん大きくなっていき…。新しい生活に踏み出す子どもたちを応援する絵本。

『石はなにからできている?』

西村 寿雄 / 文 武田 晋一 / 写真 (岩崎書店)



石は長い長い地球の歴史をゆくりとつないできた生き証人。川原でよく目にする8種類の石を拡大写真で紹介し、その性質をやさしく説明する。石の美しさをより広く知ることができる本。



『わたしはカメムシ』

新開 孝/写真・文 (ポプラ社)



くさ~いにおいをだすいやな虫？
いいえ、カメムシはいいにおいを
だすきれいな虫。卵からかえって
成虫になるまでの、カメムシのく
らしを大きな写真で紹介し

『おまじないのがみ』

赤羽 じゅんこ/作 石井 勉/絵(文研出版)



「おいしい料理をつくるためのお
まじないは、へんてこなほうがい
いんだよ」とおばあちゃんは
に教えてくれる。お葉が落ち
込んでいるとき、おばあちゃん
から届いた手紙にはおまじないの
言葉とキンモクセイの花びらが…。

『きつねのしっぽ』

おくはら ゆめ/作(小峰書店)



きつねは、しっぽを大切にしてい
ます。手入れは一日三回。松葉の
くしで毛をとかし、黄色の羽でな
でてから、仕上げに花を飾りま
す。ある日、落としかしを探し
に、どしゃぶりの雨の中、出かけ
たきつねは…。

『子うしのきんじろう』

今西 乃子/作 ひろみちいと/絵(岩崎書店)



黒毛和牛なのに金色の毛をした
「きんじろう」を見ると、島の人
たちは「気持ち悪い」と言った。
そして「肉は安全か?殺処分」と
言い始め…。黒毛和牛の牧場で生
まれた金色の子牛きんじろうと牛
飼「かあちゃん」の命の物語。

『てんこうせいにはワニだった!』

おの りえん/作・絵(こぐま社)



ぶったまげーたー、アリゲー
ター。1年2組にワニの転校生が
やってきた!とまどうオースケた
ちをよそに、ワニくんはにいと
から笑ってクラスの仲間になった。ワ
ニくんとの毎日は、いろいろなこと
があるけどとっても楽しくて…。

『はじめてのキャンプ』

林 明子/さく・え(福音館書店)



なほちゃんは、大きい子たちにまざっ
て、ひとりでキャンプに行きたいとい
いました。みんなは口ぐちに「小さい子
にはできないよ!」といます。なほち
ゃんは大きい子たちに負けまいと、重
い荷物もひとりで背負い、まきを集
め、懸命にがんばります。おいしいご
はんを食べて、一日が楽しく過ぎてい
きます。夜、テントでこわいお話を
ききますが、なほちゃんはひとりで
おしっこに行くことができました。
「ちゃんとキャンプできたよ!」*

『はるかちゃんが、手をあげた』

服部 千春/作 さとう あや/絵(童心社)



2年2組のほとんどの人は、まだ、
はるかの声をきいたことがありま
せん。はるかは、しゃべれないわ
けではありません。うちでは、だ
れとだってちゃんとしゃべれま
す。でも、学校で話すのは、こわ
くて、すごくはずかしくて…。

貸し出し中の本は

予約もできます。

くわしくは職員に
おたずねください。

